

2016年8月1日(月) 平成28年度教育改革FD/ICT理事長・学長等会議

**ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの
三つのポリシーをどのように策定し、改革を実
質化していくのか**

関西国際大学

学長 濱名 篤

質保証についての現状と 可視化の方向性

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン (概要)

資料 1 - 2

三つのポリシーの策定・公表 ⇒ **＜大学教育のPDCAサイクルの確立＞**

大学教育の質的転換 : 生涯学び続け、主体的に考える力を持ち、未来を切り拓いていく人材を育成する大学教育の実現

高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革 : 大学教育の「入口」から「出口」までを一貫したものとして再構築し、広く社会に発信

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

学生が身に付けるべき資質・能力の明確化

＜PDCAサイクルの起点＞

各大学の教育理念を踏まえ、一貫性あるものとして策定

教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

体系的で組織的な教育活動の展開のための教育課程編成、
教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

どのように入学者を受け入れるか、
入学者に求める学力の明確化、入学者選抜方法の改善

ガイドライン : 各大学の建学の精神や強み・特色等を踏まえた自主的・自律的な三つのポリシーの策定と運用の参考指針

◆策定に当たっての留意事項

(1) 策定単位

・学位プログラム単位を基本とすることが望ましい(各大学で判断)

(2) 個別留意事項

(総論)

- ・相互の一貫性・整合性に留意
- ・多様な関係者に分かりやすく示し、大学内外に積極的に発信

(ディプロマ・ポリシー)

- ・「何ができるようになるか」に力点
- ・学生が身に付けるべき能力をできる限り具体的に示す

(カリキュラム・ポリシー)

- ・ディプロマ・ポリシーを踏まえ、学生の学修方法・学修課程、学修成果の評価の在り方を具体的に示す

(アドミッション・ポリシー)

- ・2つのポリシーを踏まえつつ、多様な学生を評価できるような入学者選抜の在り方についてできる限り具体的に示す

◆運用に当たっての留意事項

(1) 大学教育のPDCAサイクル

- ・三つのポリシーを起点とした大学教育に関する内部質保証の確立
- ・実際の教育活動における三つのポリシーに基づくPDCAサイクル

(2) 三つのポリシーに基づく教育の諸活動の実施

- ・三つのポリシーに基づき、適切な方法で入学者選抜を行う
- ・体系的で組織的な教育を展開し、学生の能動的な学修の充実を図る
- ・どのような評価の基準や方法に基づき大学として学位を授与したかについての説明責任を果たす

(3) 三つのポリシーに基づく自己点検・評価と改善、情報の発信

- ・策定単位ごと又は大学レベルで、各ポリシーに照らした取組の適切性についての自己点検・評価
- ・三つのポリシーに基づく教育の実績等を、分かりやすく積極的に情報公開

高大接続答申の中の3つのポリシー＋α

- 3つのポリシーの一体的な作成を法令上位位置づけることがはっきり明記された（答申20頁）
- 大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）を確立した上で、学生の学修履歴の記録や自己評価のためのシステムの開発、アセスメント・テストや学修行動調査等の具体的な学修成果の把握・評価方法の開発・実践、これらに基づく厳格な成績評価や卒業認定等を進めることが重要である（答申21頁）。

質保証の可視化の方法

- 大学の数、目的、目標の多様性を考えて、一元尺度や一律の定量化が妥当か？
- 抽象度が高い、検証不可能な評価で社会は納得するか？
- **問われているのは、何の評価？** 学生個人？各授業科目？教員？
学位プログラム+大学全体 が優先 +個々の学生
- **ポリシーの設定は「検証（測定）ができる」** ことが必要条件
- **評価方法は目的合わせて多元的・複眼的に**（一つの尺度・方法では適切か？）

関西国際大学における3ポリシー
見直しとアセスメントポリシー

作成段階での問題意識

- ・ 前3ポリシーは“2階建て”(全学共通5項目+学部・学科の専門知3項目) であるが、これでいいのか？
- ・ **目標数**はいくつまで覚えて、意識し続けられるか？
- ・ 学位プログラムというのは“日本的”枠組み
- ・ どのようにすれば、**専門教育以外も含めた“自分事”**化することができるのか？
- ・ **整合性**や**一貫性**のあるポリシーは会議での作成向きの課題か？
- ・ **検証可能**な“アセスメント”をどのように3ポリシーに取り入れるかが重要

関西国際大学(抜粋) 【～2015年度】

第1章 総 則

(目的)

第1条 関西国際大学（以下、「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、グローバルな視野に立った教養を基礎とする専門的知識・技術を修得し、国際社会において活躍できる人材を育成することを目的とする。

(教育目標)

第1条の2 前条に規定する目的を実現するために、本学は次の各号に定める力・資質を修得・涵養し、総合的に活用できる人材を養成することを教育目標とする。

- (1) 自律できる力
 - (2) 社会に貢献できる力
 - (3) 心豊かな世界市民としての資質
 - (4) 問題解決能力
 - (5) コミュニケーション能力
 - (6) 専門的知識・技術
- 2 前項を踏まえた学部・学科の教育目標は、各学部の学部規則で定める。
- 3 本条に規定する教育目標の達成方法及び評価方法は、別に定める。

関西国際大学 教育学部規則(抜粋) 【～2015年度】

(教育研究上の目的)

第2条 本学部は、初等教育と英語教育及び社会福祉に係る専門知識を習得し、確かな倫理観と幅広い教養、また問題解決能力と実践力を持った職業人を養成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。

(学科の構成及び教育目的)

第3条 本学部は、学則第3条に定める学科及び専攻で構成する。各学科の教育目的は次のとおりとする。

(1) 教育福祉学科

本学科では、グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識、技能、態度・志向性を身につけ、教育や福祉の学びを通して、一人ひとりの立場を理解し、人間愛にあふれた専門的職業人の育成を目的とする。

具体的な教育目標は別表1に示す。

(2) 英語教育学科

本学科では、グローバル社会で活躍できる人材を養成することをめざし、自ら積極的に行動し、体験を通して社会との関わりの中で考え、行動することができる人間の育成を目的とする。

具体的な教育目標は別表2に示す。

(到達確認試験)

第3条の2 本学部教育の質保証を充実し、学科の教育目標の達成を確認するため、到達確認試験を実施する。これについての詳細は、別に定める。

別表 1 教育福祉学科の教育目標 【～2015年度】

K U I S 学修ベンチマークに掲げている自律性、社会的貢献性、多様性理解、コミュニケーション能力、問題解決能力、といったグローバルな環境に適応し社会に貢献するための基礎的な力を、教育課程全体を通じて育成するとともに、専門科目を通じて以下の4つの力を身につけ、総合的に活用できることを目的とする。

- (1)複数の研究方法を活用して、教育・社会事象を理解し、説明することができる。
- (2)教育・社会事象に関して、教育学や社会福祉学の専門知識を使って理論的に説明し、実践を改善する方策を提案することができる。
- (3)教育や福祉の場面において必要となるコミュニケーション力を獲得し、円滑な人間関係を構築することができる。
- (4)知り得た知識、経験を総合化し、実際の生活で活用することができる。

目 標 \ レベル	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
複数の研究方法を活用し、教育・社会事象を理解し、説明することができる	教育・社会事象について、複数の研究方法を有効に組み合わせて分析し、説明することができる	自分が関心を持った教育・社会事象について、適切な教育や福祉の研究方法を選んで、説明することができる	教育・社会事象を、教育や福祉の観点から、特定の研究方法を使って説明することができる	教育・社会事象を、教育や福祉の観点から研究する方法を複数知っている
教育・社会事象に関して、教育学や社会福祉学の体系的な知識を使って理論的に説明し、実践を改善する方策を提案することができる	教育・社会事象に関して、専攻する教育学または社会福祉学を含む体系的な知識を活用して理論的に説明し、実践的内容について改善する方策を提案することができる	自分が研究関心を持った現実の教育・社会事象を、専攻する教育学または社会福祉学の体系的な知識や理論を用いて、説明することができる	特定の教育・社会事象について、専攻する教育学または社会福祉学の概念や理論を用いて説明することができる	教育・社会事象についての説明に必要な、教育や福祉の基本的な概念や理論について、理解し説明することができる
教育や福祉の場面において必要となるコミュニケーション力を獲得し、円滑な人間関係を構築することができる	教育や福祉の場面で多様な人たちとの対人関係において必要となるコミュニケーション力を獲得し、どのような場面でも円滑な人間関係を構築することができる	教育や福祉に関わる場面で必要とされる対人関係を、円滑に形成していくためのコミュニケーション力を、実習等の場面で発揮し実践することができる	教育や福祉に関わる円滑な対人関係を形成していくために必要なコミュニケーション力とはどのようなものであるか理解し、教室内のグループワーク等で活用することができる	基本的なコミュニケーション力とその具体的な技法について理解し、一定条件のもとで実践することができる
知り得た知識、経験を総合化し、実際の生活で活用することができる	知識・経験・振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめた上で、生活上の具体的な問題の解決に活用することができる	教室内外で学習した知識と、自らの経験とその振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめることができる	教室内外で学習した知識と実習などの経験を結び付けて振り返り、定められた形式でまとめることができる	これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析をすることができる

関西国際大学における3ポリシー作成の手順

全体の流れとしては DP→CP→APの順
に作成

全学ポリシー（ガイドライン）と学位プ
ログラムのポリシーの整合性

全学DPの学位プログラムへの適応例

全学

- 関西国際大学は、教育基本法および学校教育法に基づき、グローバルな視野に立った教養を基礎とする専門知識・技術を修得し、国際社会で活躍できる人材の育成を目的にしています。（学則第1条）
＜[関西国際大学の教育理念](#)＞に基づき、以下の教育目標を掲げています。
（学則第1条の2）
 - （1）自律できる力
 - （2）社会に貢献できる力
 - （3）心豊かな世界市民としての資質
 - （4）問題発見・解決能力
 - （5）コミュニケーション能力
 - （6）専門的知識・技術
- これらの教育目標を達成するために＜[KUIS学修ベンチマーク](#)＞を設定しています。
「KUIS学修ベンチマーク」は、全ての学生が卒業までに身につけてもらう能力などを学習到達目標として明示したもので、4年間の学習の羅針盤としての役割を果たしています。

KUIS学修ベンチマーク(大学としての共通到達目標)項目

《KUIS学修ベンチマーク(大項目・中項目)》

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明
自律できる人間になる	自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる	知的好奇心	新しい知識や技能、社会におけるさまざまな現象や問題を学ぶことに、自ら関心や意欲をもつことができる
		自律性	自分の行動には責任が伴うことを自覚し、自らを律しつつ設定した目標の実現に向けて積極的に取り組み、最後までやりとげることができる
社会に貢献できる人間になる	社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができる	規範遵守	複数の人々と暮らす社会の決まりごとを尊重し、その背景や意義を理解して、協調的に行動することができる
		社会的能動性	自分の役割や責任を理解し、他者との積極的な協働や交流を通して、社会のために行動することができる
心豊かな世界市民になる	多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界市民として行動できる	多様性理解	自分や、自分と同じ社会的・文化的背景を持つ人たち、異なる社会的・文化的背景を持つ人たちがいることを理解し、多様な世界や社会を大切に考え、柔軟に行動することができる
		共感的態度	他者と接するときに、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って考え、共感を示すことができる
問題解決能力を身につける	状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる	情報収集・活用力	必要な情報や信頼できる情報をさまざまな方法を使って集め、解決の視点から必要な情報を取捨選択し、整理・保存しながら活用することができる
		問題発見力	現状から何が問題であるかを発見し、その解決に向けた課題を考えることができる
		論理的思考/判断力	偏った判断をすることなく、その時・その場の状況(TPO)に応じて判断し、論理的に考えることができる
		計画・実行力	問題解決に向けて見通しのある計画を立て、検証及び修正しながら実行することができる
コミュニケーション能力を身につける	社会生活を営む上で、他人の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自分の思いや考えを的確に表現し、意見を交わすことができる	自己表現力	言語的及び非言語的な表現方法を工夫しながら、自分の思いや考えをわかりやすく効果的に表すことができる
		意見交換・調整力	他者の発言を傾聴し、文章を読解して、その内容の要点をとらえ、自分の疑問や主張をまとめて、他者と意見の交換や調整をすることができる

別表1 KUIS学修ベンチマーク(2014春改訂版)

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
自律できる人間になる	自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる	知的的好奇心	新しい知識や技能、社会におけるさまざまな現象や問題を学ぶことに、自ら関心や意欲をもつことができる	修得した知識・技能を社会でどのように活用できるかについて、主体的に関心や意欲を持つことができる	修得した知識・技能と社会の現象を関連づけて、新たな疑問や関心について積極的に学ぶ意欲を持つことができる	知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる	社会の現象や授業で学ぶことに関心を持つことができる
		自律性	自分の行動には責任が伴うことを自覚し、自らを律しつつ設定した目標の実現に向けて積極的に取り組み、最後までやりとげることができる	自分の行動には責任が伴うことを理解し、自分の目標の実現に向けて積極的・主体的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる	自らの責任を自覚しつつ設定した目標の実現に向けて継続的に取り組むことができる	与えられた課題や自分で設定した目標について、自分なりにやり遂げる方法を見つけて取り組むことができる	与えられた課題の実現に向けて、自分の責任を理解して取り組むことができる
社会に貢献できる人間になる	社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができる	規範遵守	複数の人々と暮らす社会の決まりごとを尊重し、その背景や意義を理解して、協調的に行動することができる	社会のマナーや集団でのルールを尊重していくために、自ら率先して、社会から信頼される良識ある行動をとることができる	状況に応じて必要なマナーや集団でのルールを考え、進んで守り、協動的に行動することができる	社会のマナーや集団でのルールや背景や意義を理解した上で、守ることができる	社会のマナーや集団でのルールを守ることができる
		社会的能動性	自分の役割や責任を理解し、他者との積極的な協働や交流を通して、社会のために行動することができる	社会が求めていることを理解し、他者との協働のもと、社会のために自ら活動を組織して行動することができる	社会が求めていることに関心を示し、社会のために他者と協働しながら行動することができる	集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動することができる	集団の中で、自分の果たすべき役割や責任を考えながら行動することができる
心豊かな世界市民になる	多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界市民として行動できる	多様性理解	自分や、自分と同じ社会的・文化的背景を持つ人々、異なる社会的・文化的背景を持つ人々がいることを理解し、多様な世界や社会を大切に考え、柔軟に行動することができる	自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を尊重しつつ、普遍的な視点に立った行動をとることができる	自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を尊重して、交流することができる	自分の価値観と異なる価値観、双方の社会的・文化的背景に関心をもち、違いがあることを受け入れることができる	自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を持つ人々がいることを理解することができる
		共感的態度	他者と接するときに、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って考え、共感を示すことができる	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すとともに、その人が必要としていることに配慮した行動をとることができる	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すことができる	相手の感情、思考、行動を理解するために、その人の立場に立って考えることができる	相手の話を聞くときに、目線を合わせるなど、向き合う姿勢をとることができる
問題解決能力を身につける	状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決すること	情報収集・活用力	必要な情報や信頼できる情報をさまざまな方法を使って集め、解決の視点から必要な情報を取捨選択し、整理・保存しながら活用することができる	多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を的確に選択して収集し、問題発見や解決のアイデアを構想することに活用することができる	多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を収集して、要点を整理・保存しながら、自分の主張やアイデアを裏づけることができる	多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集め、要点を整理してから保存することができる	多様な情報源から必要な情報を集めることができる
		問題発見力	現状から何が問題であるかを発見し、その解決に向けた課題を考案する	今後生じる可能性のある未知なる問題を予測し、これまでの問題解決	現状を確認し、今後生じる問題を積極的に見つけ、解決のための課題	現状を確認し、生じている問題に気づき、解決のための課題を考案する	現状にある問題に気づくことができる

教育福祉学科

卒業認定と学位授与の方針（DP） 新

教育福祉学科(以下、「本学科」という)では、本学の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と専門知識・技術を修得し、専門職として活躍できる実践力を身につけた教育・福祉人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

(1)自律的で意欲的な態度（自律性）

教員・社会福祉従事者としての目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に主体的・自律的に取り組むことができる。

(2)社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）

教員・社会福祉従事者として地域社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。

(3)多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）

教員・社会福祉従事者として、対象者がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。

(4)問題発見・解決力

教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。

(5)コミュニケーション能力

教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑なコミュニケーション力を獲得し、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。

(6)専門的知識・技能の活用力

教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を活用して、状況に応じ総合的に活用することができる。

教育福祉学科CP 新

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

1 教育内容

(1)4年間を通じた学修の基礎となる共通教育においては、必修科目「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。

(2)コモンベーシック科目群では、初年次教育をとおり、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを修得します。学習技術、コンピュータ技術、外国語科目などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得をはかります。

(3)既修外国語である英語教育においては、習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて習熟度を確認し、学生自身の学修進度にあった英語を活用したコミュニケーション能力の育成をはかります。

(4) 教育や社会福祉等の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけてコースや分野別に体系性・順序性を考えて配置します。

(5)入学時に、こども学専攻教育・保育コース、こども学専攻教育専修コース、福祉学専攻の専攻・コースに分けて教育課程を設定します。こども学専攻教育・保育コースは、保育や初等教育、特別支援教育、こども学専攻教育専修コースは、初等教育、特別支援教育、福祉学専攻は社会福祉等の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけて体系性・順序性を考えて配置します。

(6)すべての学生は国外における体験活動として、2年次もしくは3年次に海外プログラム(グローバルスタディ)の履修を行い、その参加に先立ち、「リサーチ入門」を必修科目として1年次後半に履修します。

(7)すべての学生に、1年次において、地域における体験活動としてサービスマーケティング、またはインターンシップの履修を選択必修とし、積極的に地域へ貢献する学外活動に参加します。

(8)入学時の専攻・コースで取得可能な資格・免許が取得できるよう、保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許・特別支援学校教諭免許取得・社会福祉士国家試験受験資格等の取得に必要な科目を、1年次から体系的・系統的に配置します。

(9)教育や福祉の現場で求められている実践的能力の育成のために、特別支援教育関連科目と初等教育での英語教育科目（初等英語教育研究、発音指導等）の履修を奨励します。

(10) 学生全員が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。

2 教育方法

(11)主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門教育科目で実施します。

(12) 専門教育科目においては、教室外学修の課題を課す時期と課題の整合性・連続性をはかり、形成的評価のための期中のフィードバックを行います。

(13)教員や保育士、社会福祉士等の免許や国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために外部テストの受験及びeラーニングによる自己学習の推進や結果の継続的なモニタリングを行います。また、学科教員による採用試験・国家試験対策のための時間を開設し、1年次から段階を追ったプログラムを実施します。

(14)目標・記録・評価の総合的ツールであるeポートフォリオという目標・記録・評価ツールを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。

(15) 各学期末にKUIS学修ベンチマークの達成度について学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を行います。

3 教育評価

(16) 2年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

(17) 4年間の学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積GPA、3年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。

教育福祉学科

入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）新

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

- (1)高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2)教育、保育、社会福祉領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。
- (3)教育や社会福祉の専門的な知識・技能を学修するための基盤となる日本語運用力（文章読解力、漢字検定3級以上程度）や表現力（課題に応じた内容をまとめる力、文章を読んでまとめる力他）を身につけている。
- (4)基礎的英語力(英検3級程度)を身につけている。
- (5)教育や社会福祉に関する諸課題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (6)学校での学習や課外活動・ボランティア活動等の経験があり、他の人達と協働して活動や学習をすることに進んで参加できる。また、グループワークなどで、他の人と協力しながら、課題をやり遂げる意欲がある。
- (7)入学前教育として求められるeラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

3つのポリシーを可視化するためのアセスメント

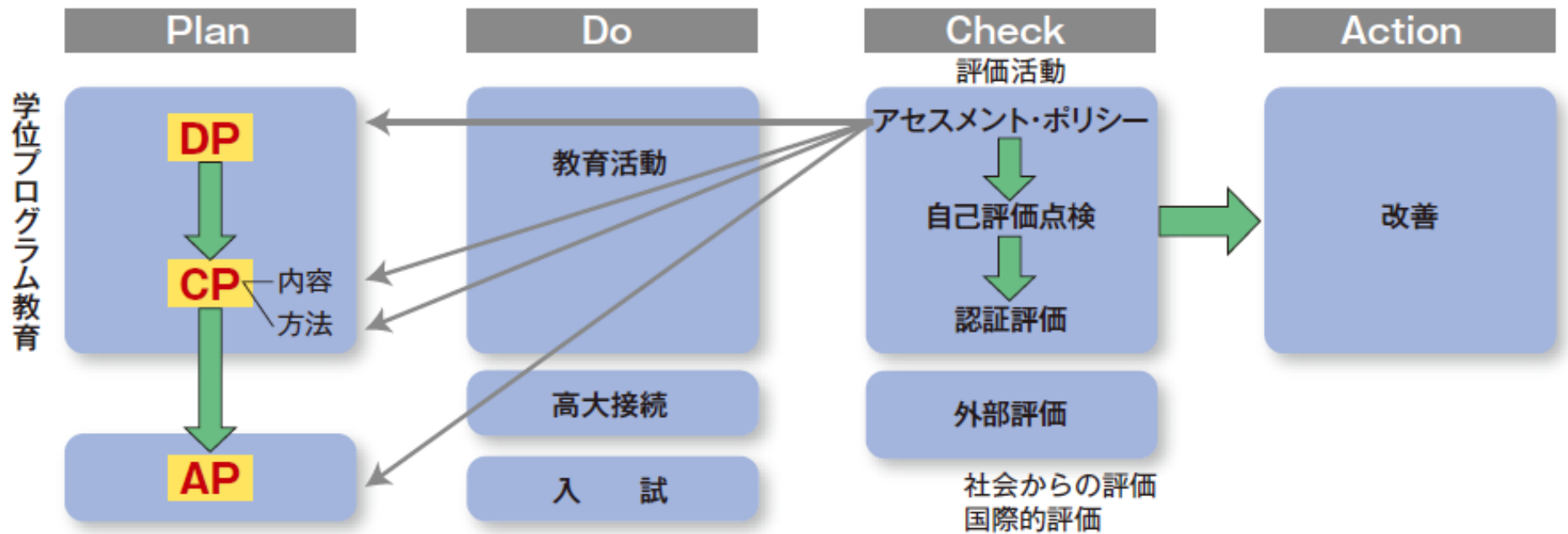
基本は学位プログラム単位でのアセスメント（全学の方針）

全学の方針を前提にポリシーをつくる（学部・学科or 学位を単位に）

- 検証・測定に必要な「**観点・基準standard**」と「**尺度criteria**」
定量化しやすい評価（国試合格率、標準化テスト・スコア等）

定量化しにくいパフォーマンス評価（ルーブリックを活用した学修成果の評価や行動評価、eポートフォリオ、フォーカス・グループ・インタビュー等）

- c f . 面接試験の評価は観点・基準は共有されている？
CPを充たした教育が行われている？
DPを充たした学修成果が上がっている？
DPやCPに必要な条件を測る選考を行うことを明らかにした
APになっている？ APが必要な能力や条件を測っていた？



出典:リクルート カレッジマネジメント198 May-Jun.2016

関西国際大学のアセスメントポリシー

(1) 大学および学部・学科を対象とする評価（プログラム評価）

大学および学部・学科が掲げる学修到達目標（教育目標）が達成されているか。また、達成されるカリキュラムになっているか。

- 学生のベンチマークチェックを集計
- 大学全体あるいは学科別の達成状況を把握。
- 2年生修了段階での専門必修科目を出題範囲とする到達確認試験の結果
- 卒業研究（サンプリング）をルーブリックを用いて集団評価（試行中）



<教育改善・施策>

- 達成度の低い項目の要因分析
ベンチマークに掲げる目標を達成するための活動
機会が十分か？目標レベルが高いのか？
- ある項目のレベルが上昇した学生とそうでない学生との比較（学生調査、テスト、ポートフォリオ）=IRの活用

関西国際大学のアセスメントポリシー

(2) 授業科目を対象とする評価（科目担当者）

個々の授業科目で学修到達目標が設定され、達成のための学習内容・教育方法、達成状況を測定できる評価方法（課題等含む）が採用されているか。

成績評価終了後に、担当科目の評価を実施。



<授業改善>

- 達成度の低い目標は？
- 教育方法、課題は適切だったか？

<学修・学生支援>

例えば、複数科目でライティングの評価の低い学生
⇒学修支援センターorライティングの講座

関西国際大学のアセスメントポリシー

(3) 学生個人を対象とする評価

各個人の学生が学修到達目標を達成しているか。また、達成していることを他者に示すことができるか。

リフレクション・デイ：9月末、3月末～学期はじめ

- 成績表、前学期に受講した科目のレポートやテストの採点結果を学生に返却
- 前学期のふりかえり
- **ベンチマークチェック**
- 今学期の目標と計画の設定
- アドバイザーとの面談



学生が授業でベンチマーク（目標）を自覚することが重要

結論

- 高大接続改革の意義は初中等教育（とりわけ高校教育）と大学教育の連続性・継続性・発展性の構築
- 入試改革のロードマップは不確定要素も大きいですが、大学教育改革の方向性は汎用性を持った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的態度」といった学力の3要素（≒学士力、社会人基礎力、コンピテンシー）を育成できる大学教育の質保証メカニズムの確立
- 学修成果の可視化は必然的
- **3つのポリシー（とりわけDPが基本であり）は測定可能なものにし、その結果を大学自らが説明する責任を負う**
- 私立大学は、他律的に評価されるのではなく、自らの教育理念等と上述の汎用的知識・スキル・態度特性を組み合わせで作成した自らの目標を、**多元的に（複数の方法の組み合わせ）に能動的に自己評価（測定・検証・評価）**することが必要
- 認証評価は前述の自己評価が妥当性を持つものであるのか検証・評価するのが主たる役割（第3サイクルでの役割）

参考資料

- 川嶋太津夫「大阪大学における3ポリシー策定の経緯と課題」中教審大学分科会大学教育部会 ヒヤリング資料 2015.10.16
- 森利枝「第三者評価と大学版ルーブリック 客観性と共通性の高い評価を求めて」アルカディア学報（教育学術新聞掲載コラム）, 2013, No.515,
- 森利枝「アメリカの第三者評価における学修成果への目線」私学高等教育研究所シリーズNo.53『諸外国における質保証の動向（米国・英国・欧州）』2014